「レプリケイト」

―初稿―

2025/2/11

雨森　れに

〈人物表〉

瀬間　なみ　（３２）　会社員。マニュアル人間。
田中　希未　（２５）　なみの後輩。流行り物がすき。
渡辺　智子　（２５）　なみと同じ部署。関りが少ない。

〈ログライン〉

なみが希未を真似し、希未に逃げられたため、新しいターゲットを見つける。

〈テーマ触媒〉

光と影
光（普通）になりたがる影（マニュアル人間）という解釈で使用。

〈テーマ／フック〉

マニュアル人間／真似

1.

会社・オフィス（昼）

シックなパンツスーツの瀬間なみ（３２）。
プリンターから印刷物を取り出す。
自席に戻り、隣の席の田中希未（２５）に渡す。
希未はフェミニンなオフィスカジュアルを着ている。

なみ　「はい。書いてある通りにすれば間違えないから」
希未　「やっぱりこの作業のマニュアルあったんですね！　先輩に相談してよかった～」
なみ、希未の嬉しそうな様子を見て微笑む。
希未の隣の席に座る、渡辺智子（２５）がふたりのやり取りをチラ見している。

2.

アパート・室内（夜）

壁一面の本棚に『働く女性の教科書』『女の品格』『後輩への話し方』などの啓発本が並んでいる。
ハンガーラックには昼間着ていたスーツがかかっている。
なみがテーブルにファッション雑誌を広げ、口紅の写真にマルをつける。
床には付箋がついた雑誌が散乱している。開いてあるものにはマルがついている。そのうちの一冊、昼間のスーツと同じものにマルされている。

3.

会社・女子トイレ・パウダーコーナー（昼）

前日と同じスーツ姿のなみ。化粧直しをしている。
暗いブラウンカラーの口紅を塗り、不機嫌そうに眉根を寄せる。
希未がパウダーコーナーに入ってくる。服装は白のブラウスに灰色のフレアスカート。
希未、なみの手元を見て顔を輝かせる。

希未　「先輩、それ新作じゃないですか～」
なみ　「さすが。チェックしてるねぇ。でも、色失敗しちゃって」
なみ、口紅を拭う。
希未　「言われてみればちょっと暗いですかねー？　タッチアッ

プしました？」
なみ　「ううん。休憩中に急いで買ったからさ」
希未　「なるほど……ちょっと手首見せてくださいね。（手首の血管を見る）あーブルべっぽいなぁ」
なみ　「あ、それってパーソナルカラー？」
希未　「ですです。多分私と同じブルべ夏ですよ。ちょっとこれ使ってみてくださいよー」
　希未がミニ口紅を渡す。
なみ　「え、なにこれ小さい」
希未　「これのおまけでついてたやつです」
　希未、通常サイズの同じ口紅を取り出して見せる。
希未　「使ってないんで、よかったらどうぞ。私とおそろっちしましょ～」
なみ　「（笑って）若者と同じとか似合うかなー」
　なみ、口紅をつける。落ち着いたローズカラー。
　驚いたように固まって、鏡を見つめる。
　希未も鏡を覗き込む。
希未　「え、めっちゃ似合う。やっぱ私と同じブルべ夏、確定じゃないですか～」
　なみは返事しない。
　鏡の中で笑顔になったり唇を突き出したりと表情を変えることに夢中になっている。
　希未はなみの様子に戸惑う。
希未　「あの、先輩？」
　なみ、鏡を見つめたまま真顔になり、
なみ　「そう、だね。うん。同じかも」
希未　「で、ですよねー。実際つけて試してみるって大事ですよー」
　なみ、ひとり言のように、
なみ　「実際つけて……」
　鏡を見つめ続ける。
希未　「えっと、私、先戻りますね？」
　希未がその場を離れようとする。
なみ　「待って」

なみ、鏡から目を離し、希未の全身を舐めまわすように見る。

なみ　「使ってる化粧品、全部教えてもらってもいい？」

4.

デパート・エスカレーター・上がり（夜）

なみが化粧品のショップ袋を大量に持っている。
降り口正面のショーウインドウが見えてくる。
マネキンが希未と同じブラウスを着ている。
なみの口元が嬉しそうに歪む。

5.

アパート・室内（朝）

雑誌の上に散乱するショップ袋。
なみ、希未と同じブラウスを身に着け、鏡で確認。
テーブルで化粧を始める。
化粧品はすべて新品で、ひとつひとつ保護フィルムを剥がして使う。

6.

会社・女子トイレ・パウダーコーナー（朝）

希未　「先輩？」
鏡を見ていたなみが振り向く。
なみは昨日の希美と全く同じメイクと服装。

なみ　「あ、おはよう」
希未、なみの姿を見て戸惑う。

希未　「え、なんで？　どうしてですか？」

なみ　「希実ちゃんが教えてくれたんじゃない」

希未　「え？」

なみ　「私たち、同じだって。大丈夫。ちゃんと試したし。似合ってるでしょ？　この服も」
なみが嬉しそうにブラウスを撫でる。

なみ　「そうそう、スカートも同じ店だったんだね」

希未　「信じらんない……私、そういう意味で同じって言ってないです！」

なみ　「なんで？　おそろっち、しようよ」
なみ、にたりと笑う。

希未は信じられないとばかりに口元に手を当てる。
なみ、希未の爪を見て、
なみ「ネイル、いいよね。私もやってみようかな。どこでやったの？　なんて注文すればいい？　あ、写真撮って見せればいいのかな？」
スマホを取り出す。
希未「やめてください！」
なみが止まる。
希未「同じって、全部一緒にしたいって意味じゃないです！」
なみ「あ、そういうこと。いいのいいの。私が勝手にやるから、希未ちゃんは気にしないで」
なみ、希未の手を強引に掴んで、
なみ「（間近で爪を見て）きれい。これジェル？」
爪の写真を撮り始める。
なみ「実際に見るっていいよね。マニュアル人間だから知らなかったんだよね」
希未「（泣きそうになりながら）もうゆるして……」
なみ「じゃあ、お願い聞いてくれない？」
なみが希未に顔を近づけ、
なみ「希未ちゃんの喋り方、教えて」
希未の髪を撫でようとする。
希未「イヤァ！（なみを突き飛ばす）」
逃げていく希未。
なみは追いかけず、鏡を見る。
希未の顔を思い出すように、恐怖に染まった表情を作る。
なみ「『イヤァ！』」
なみは満足げに、鏡を撫でる。

7.

会社・オフィス（朝）

なみがトイレから戻る。
フロアはざわざわとした様子。みな、なみを見てひそひそとする。
なみは気にせず自席へ。

自席の周りは誰もおらず、ふたつ隣の席の智子だけいる状態。
希未へ電話をかけるが、出ない。
智子に焦ったように声をかける。

なみ　「ねぇ、希未ちゃん知らない？　出勤してたよね？」
智子　「し、しらないです」
なみが舌打ちする。
再度電話をかける。
なみ　「あ、ちょっと！　マニュアルは手元にあるものでしょ―
―はっ？　留守電！？」
スマホをデスクに叩きつける。
なみは頭を抱えて、
なみ　「どうしよう。間違えちゃう……」
智子、なみをチラ見する。
何度も声をかけようとしては止め、ようやく、
智子　「マニュアル、持ち帰られちゃったんですか？」
なみが顔をあげる。
清楚な雰囲気の智子が、心配そうにしている。
智子　「私でよかったら手伝いますけど……」
なみ　「ほんとに……？」
なみが縋るような眼差しで智子を見る。
同僚Ａ「瀬間さん、課長が呼んでます」
なみ　「（嫌そうに）すぐ行きます。ねぇ、渡辺さん。あとでゆっくりはなそ」
智子　「はい」
なみ　「ネイルの事とか、いろいろ教えてね」
なみ、智子の髪を触る。
困惑する智子。
なみが席を立ち、歩き出す。その口元は嬉しそうに歪んでいる。

おわり